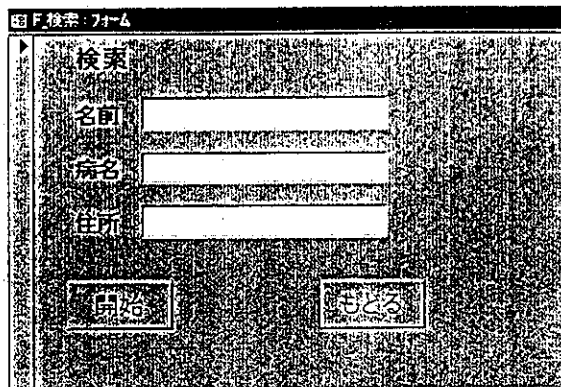


(I) 「F_検索」と名前を付けて保存します。
出来上がりは、右図のようになります。

*病名をリストボックスにする操作は付録で行います。



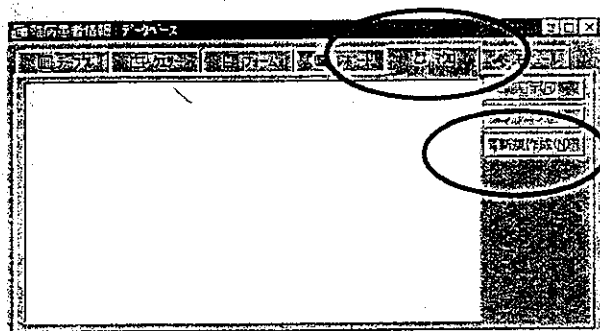
(6) 「メインパネル」のボタン操作のマクロを作成します。

① 「マクロ」



「新規作成」

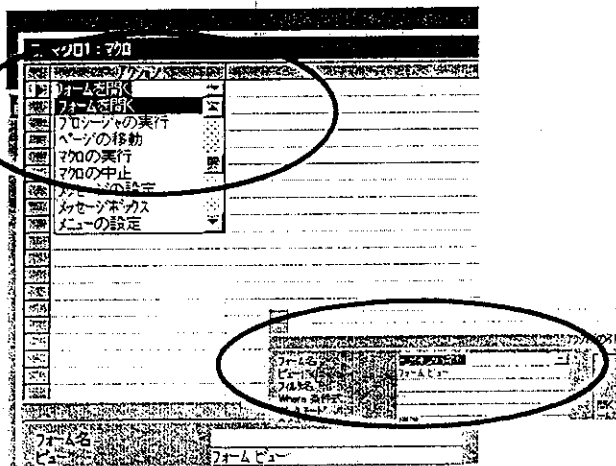
これでマクロのデザイン画面が現れます。



「アクション」に「フォームを開く」
を入力。



「フォーム名」に「F_メインパネル」を
入力。



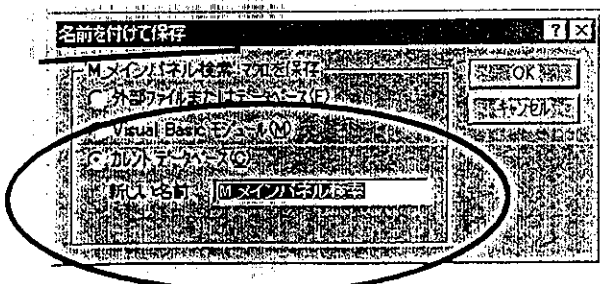
「ファイル」



「名前を付けて保存」



「M_メインパネル検索」の名前を付けて
保存します。



次にこのマクロを使って、「F_メインパネル」と「F_検索」を連動させます。

*ファンクションキー[F11]を押すと基本画面が現れますので操作が簡単です。

↓
「F_メインパネル」を「デザイン」ビューで開きます。

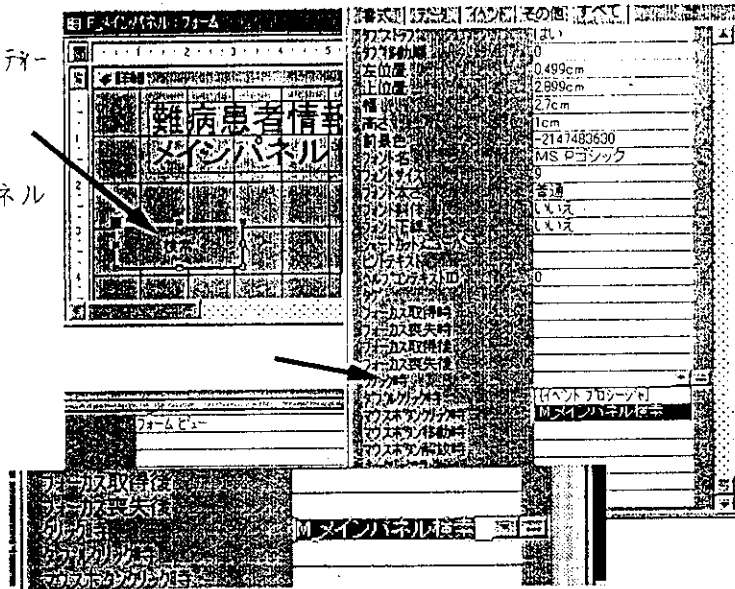
↓
コマンドボタン「検索」のプロパティ
を開きます。

↓
「クリック時」に「M_メインパネル
検索」と入力します。

↓
「ファイル」

↓
「上書き保存」

↓
右上 [X]で閉じてください。



②マクロをまとめたマクロを作り整理します。

*しかし上記のような操作をするとコマンドボタンの数だけマクロを作らなければならないため、このように1つずつマクロを作り名前を付けていくと分かりづらくなります。

そこで、関係のある部分についてはまとめてグループ化^{グルーピング}し^{グルーピング}てわかりやすくなります。

ファイルの整理の際、ディレクトリーを作成するのと同じことを行うわけです。

「マクロ」

↓
「新規作成」

↓
①と同じマクロデザイン画面

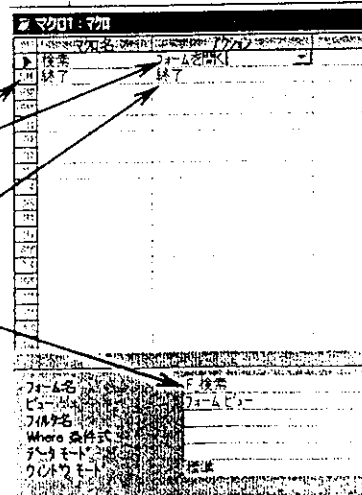
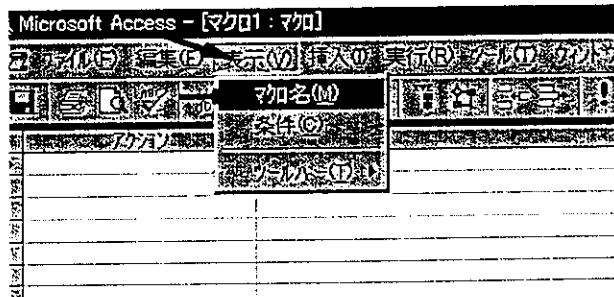
↓
「表示」

↓
「マクロ名」

ここで(ア) マクロ名：検索
アクション：フォームを開く
ファイル名：F_検索

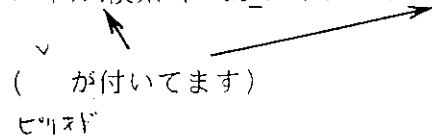
(イ) マクロ名：終了
アクション：終了

と入力し、マクロ名を「M_メインパネル」
として保存してみましょう。



「F_メインパネル」のマクロボタンの「検索」あるいは「終了」のフッターを開き、フッター内の「クリック時」にそれぞれ ” M_メインパネル.検索”、” M_メインパネル.終了” を選択します。

↓
(が付いています)
ピリオド



↓
「F_メインパネル」を開き、マクロボタンを押して、マクロが的確に動作することを確認してください。

*①で作成した M_メインパネル検索は不要ですので削除しましょう。

(7) 検索用のクエリを作成します

「クエリ」で「新規作成」



「選択クエリウィザード」



「OK」



「テーブルクエリ」はTk2200を選択



「選択可能なフィールド」の中から「F_検索」、「F_検索結果」で利用すると考えられるフィールドを選択します。一個ずつ選ぶ時は「>」、すべてを選ぶ時は「>>」を押します。もし、間違っていたら「<」「<<」で修正します。



「次へ」



「すべてのフィールド」の表示



「次へ」



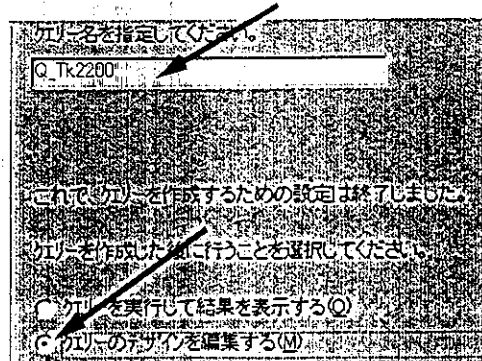
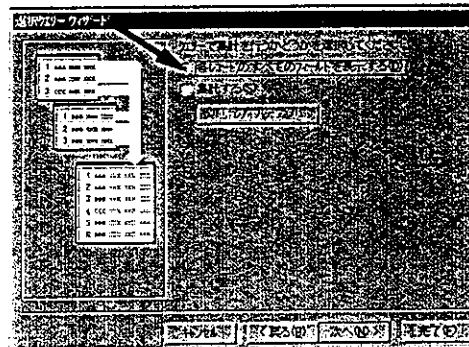
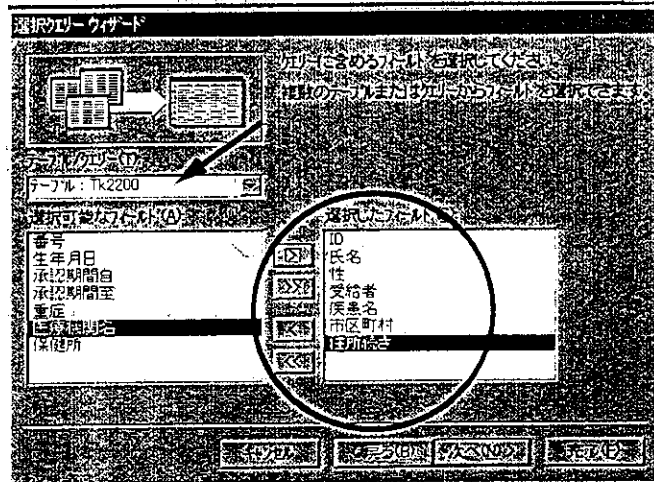
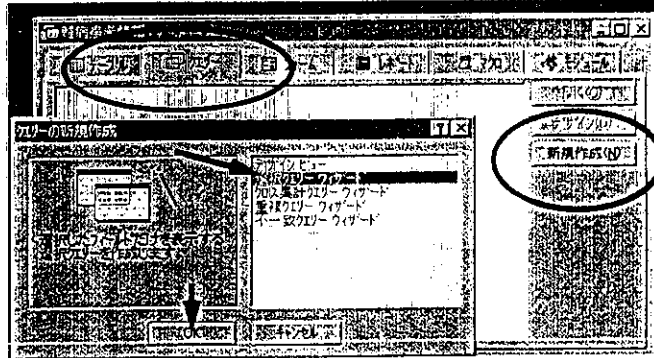
クエリ名を「Q_Tk2200」としてみました



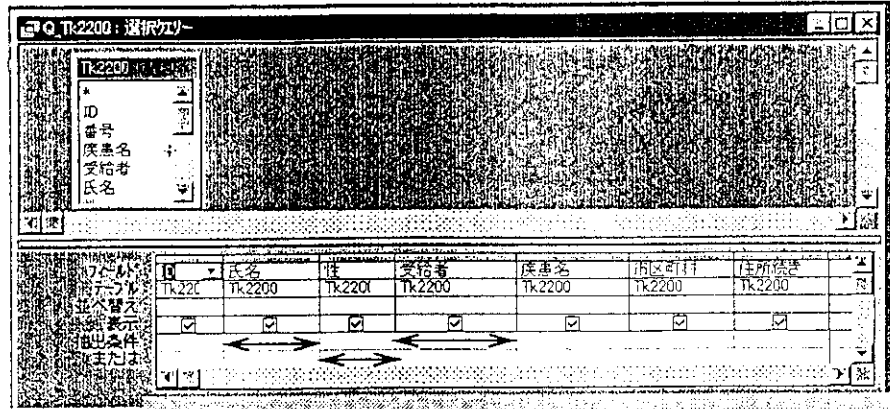
「デザインを編集する」を選択



「完了」



デザイン画面が現れます。ここでは、全体を見やすくするためにそれぞれの幅を狭くしています。



フォーム「F_検索」画面で名前、病名、住所（市町村名）を入力したら、フォーム「F_検索結果」で該当する患者のリストが現れるようにしたいのですが、名前や病名を正確に覚えていないこともあります。そこで、一部分でも入力すると、それを含むすべての該当者を抽出する条件式を作成します。

すなわち、「名前」に”平”と入力すると「平田」「平井」「奥平」等すべてが抽出されるようにします。

そのためには、「抽出条件」に図のように記載します。

Like は比較するための演算子、“*”は任意の文字（無でも良い）、& はつなぎを意味します。

[Forms]![F_検索]![名前]は検索したい文字のある場所を示しています。[、!、]等の記号に注意してください。半角です。

クエリ-の右上[X]を押すとクエリ-の変更を聞いてきますので「はい」を押してください。

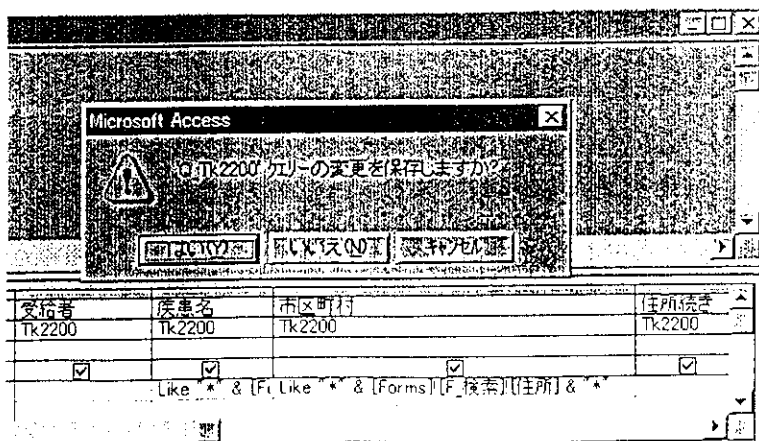
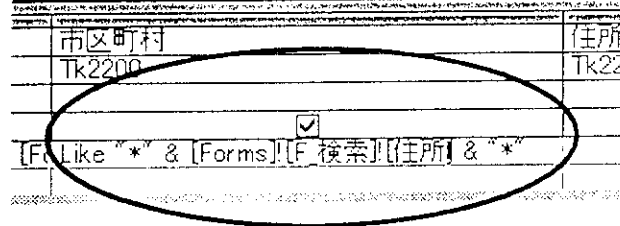
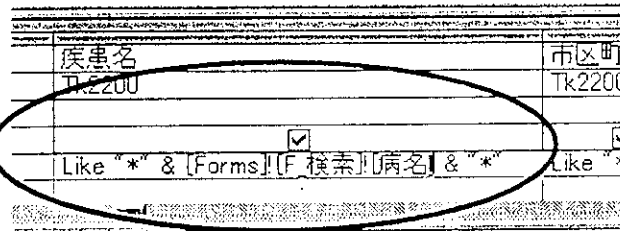
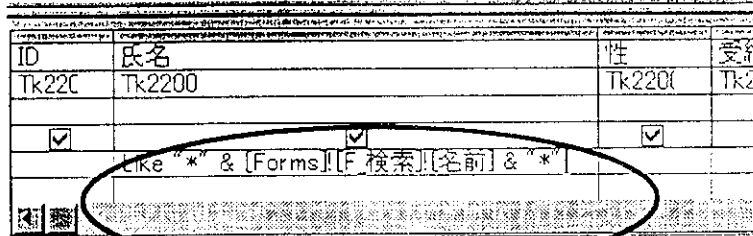
安全を考えるならば、

ファイル



「上書き保存」

その後[X]で閉じた方が良いでしょう。



(8) フォーム「検索結果」を作成します。

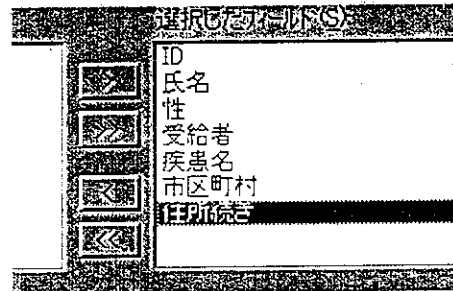
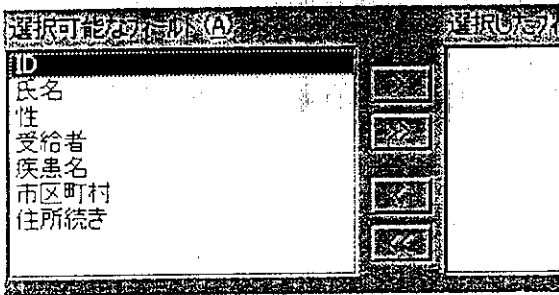
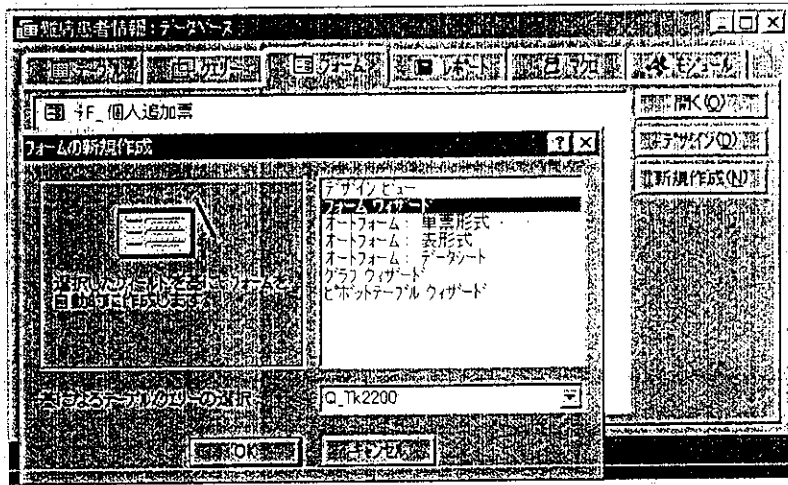
(7) で作成したクエリを
基にしたフォーム「検索結果」
を作成します。

「フォーム」→「新規作成」

↓
「フォームウィザード」を使っ
てみましょう。

↓
基になるクエリ「Q_Tk2200」

↓
「OK」

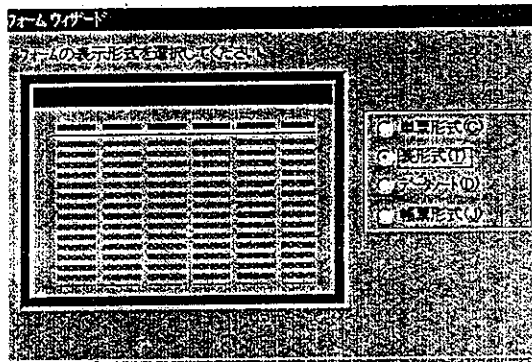


「選択可能なフィールド」より ここでは「>>」を押してすべてを選びます。

表示形式は「表形式」にします。

(他を選んで遊んでみてください)

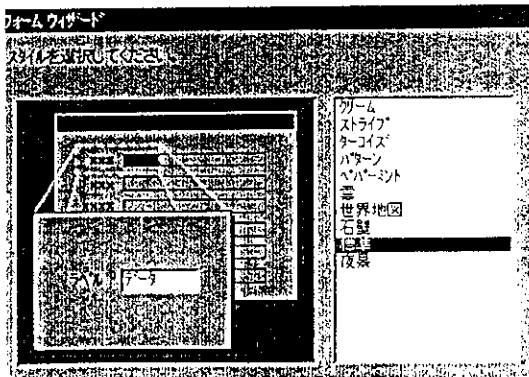
↓



スタイルは「標準」とします。

(他を選んで遊んでみてください)

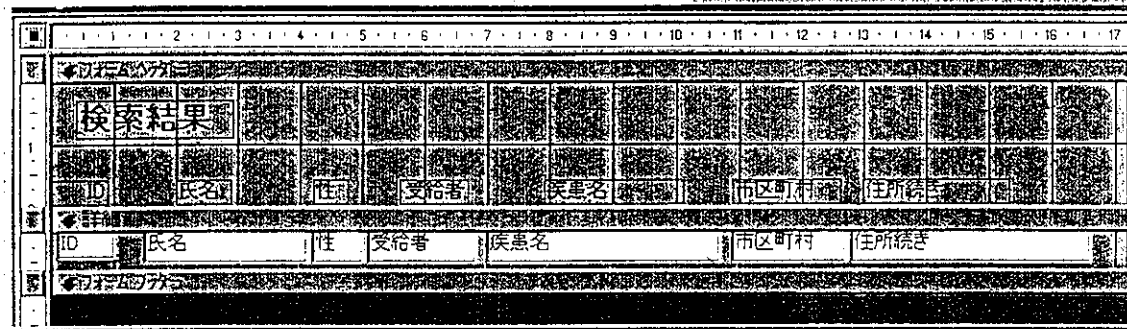
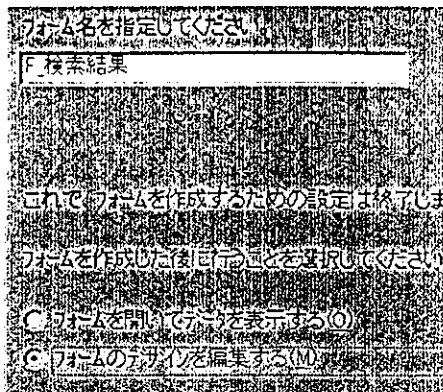
↓



フォームの名前は「F_検索結果」とします。

さらにデザイン編集が必要ですのでそちらを選択します。

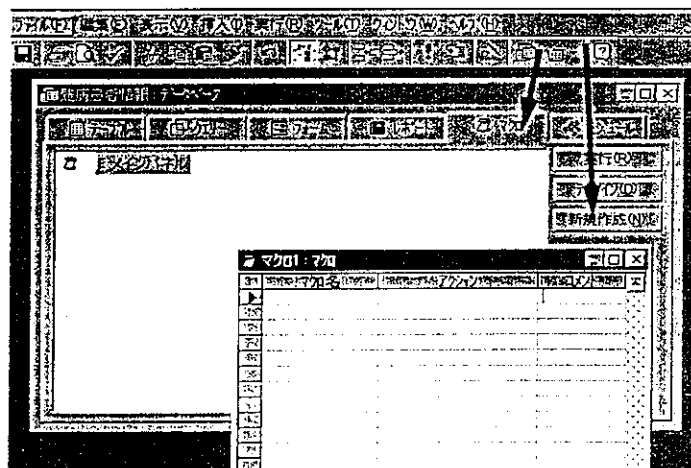
ラベルやテキストボックスを調整して下図のようなフォームを作ります。

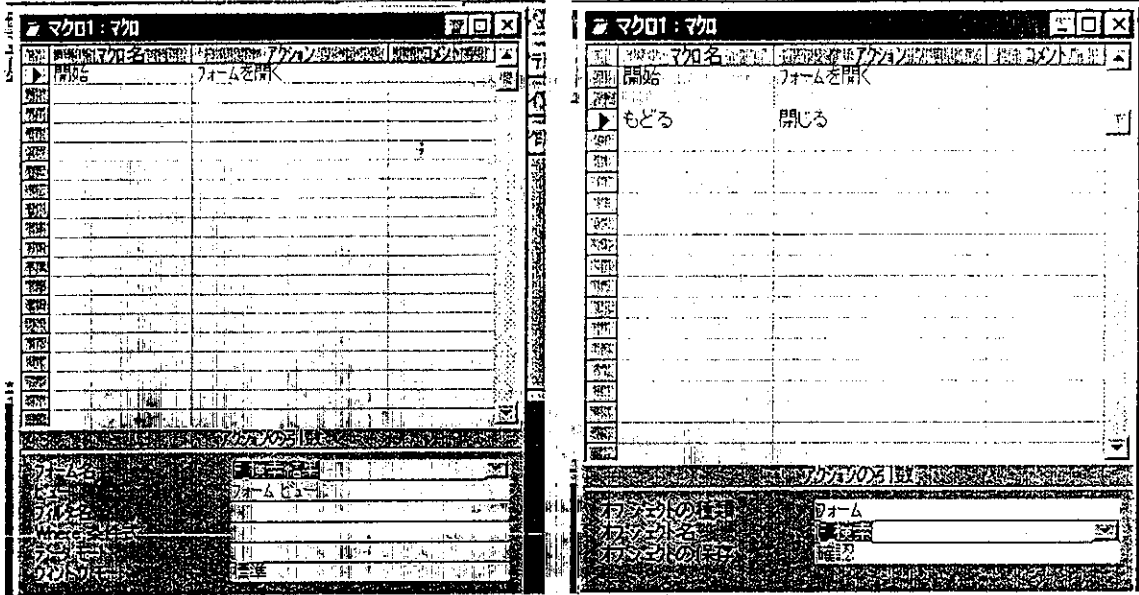


(9) フォーム「F_検索」のボタン操作のマクロを設定し、フォーム「F_検索結果」と接続します。

- 「マクロ」
- ↓
- 「新規作成」
- ↓
- 「表示」の「マクロ名」
- ↓

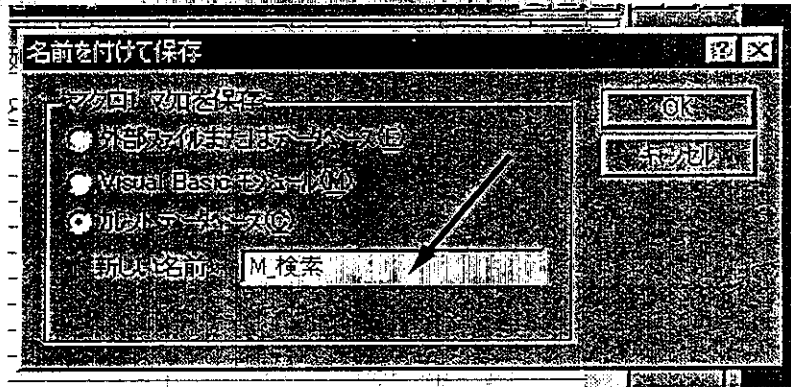
「開始」と「もどる」という2つのマクロを作成します。





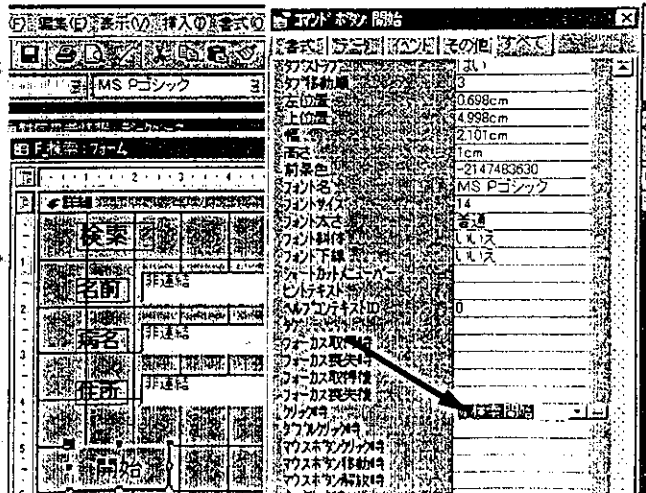
「開始」はアクションが「フォームを開く」でフォーム名が「F_検索結果」、「もどる」はアクションが「閉じる」でオブジェクトは「フォーム」オブジェクト名は「F_検索」です。
 * 「開始」で「フォームを開く」だけでなく次の行に「最大表示」を加えてみたらどのようなか試してみてください。

↓
 「ファイル」
 ↓
 「名前を付けて保存」
 ↓
 「カルトデータベース」を選択
 ↓
 名前を「M_検索」とします。



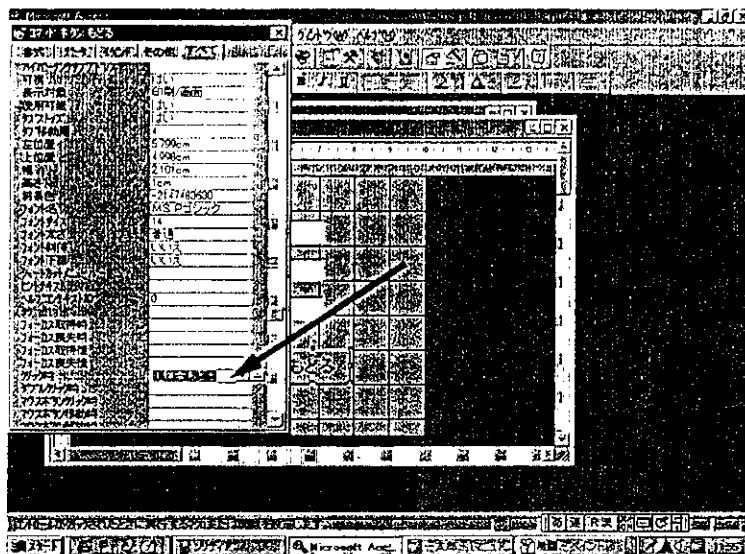
次に、フォーム「F_検索」をデザインビューで開いてください。

↓
 「開始」ボタンのプロパティを開き
 「クリック時」に「M_検索. 開始」を選択。



また、「もどる」ボタンのプロパティを開き「クリック時」に「M_検索. もどる」を選択。

「ファイル」の「上書き保存」保存したあと、フォームの右上「X」で閉じます。

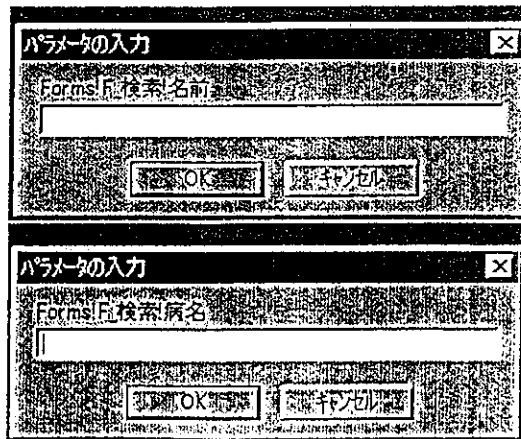


(10) 検索結果の一覧表印刷の型レポート「一覧表」を作成します。

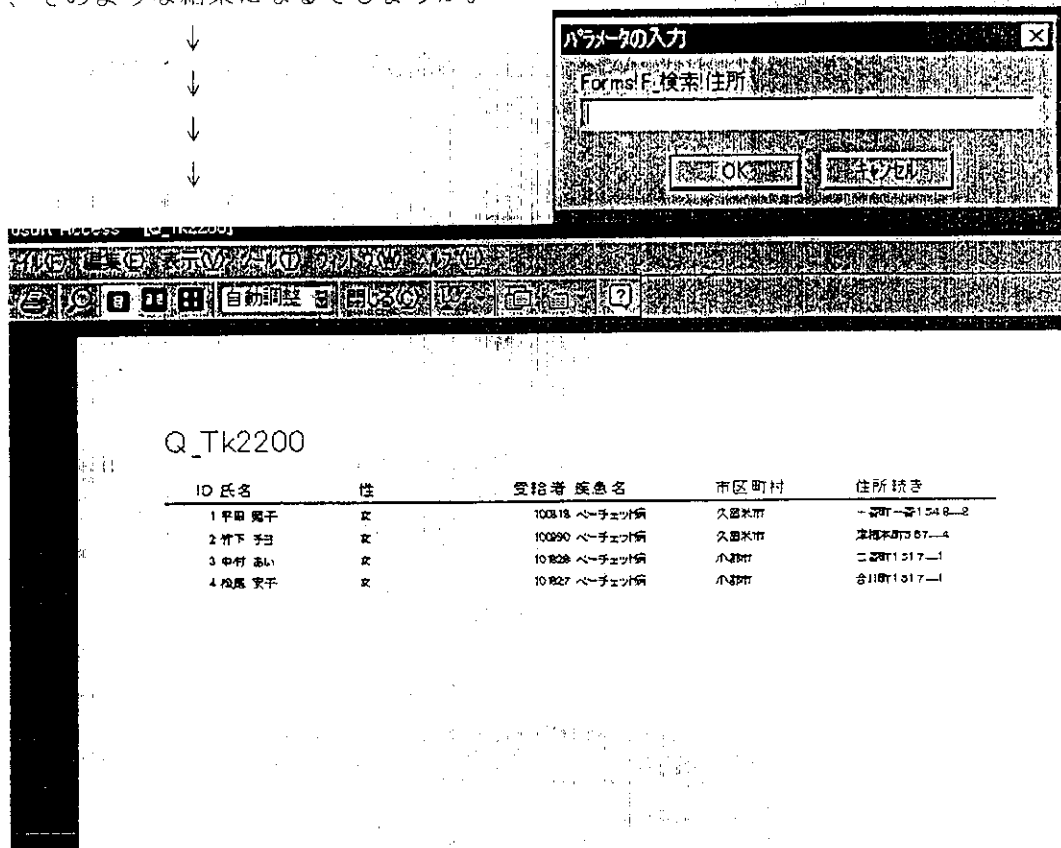
レポートで
 「新規作成」
 ↓
 「オートレポート：表形式」
 ↓
 基になるテーブル・クエリに「Q_Tk2200」
 を選択
 ↓
 「OK」




パラメタの入力を聞いてきます。
 ここではすべて何も入力しないで「OK」を押します。
 *前ページで選択したクエリ「Q_Tk2200」の内容を
 思い出してください。何も入力しなければすべて
 選択されることになっていました。



さて、そのような結果になるでしょうか。



このような結果になったでしょうか。大きな文字で全体が見えないようなら「虫眼鏡」のアイコン  を押すか、「自動調整」右の▼を押しサイズを選択して調整してみてください。

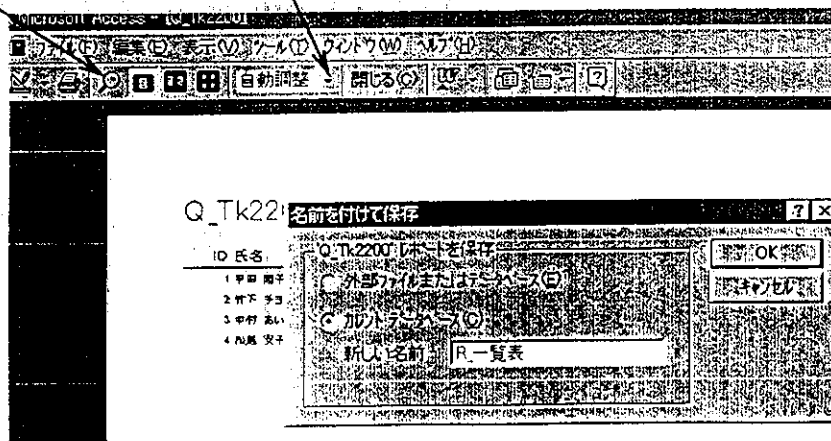
ファイルの「名前を付けて保存」

↓
カレントデータベース

↓
新しい名前：
「R_一覧表」

↓
「OK」の後

ポインタの右上「X」で閉じてください。



(11) 検索結果のラベル印刷の型レポート「ラベル」を作成します。

レポート → 「新規作成」



「宛名ラベルウザード」



基になるテーブル・クエリ: 「Q_Tk2200」



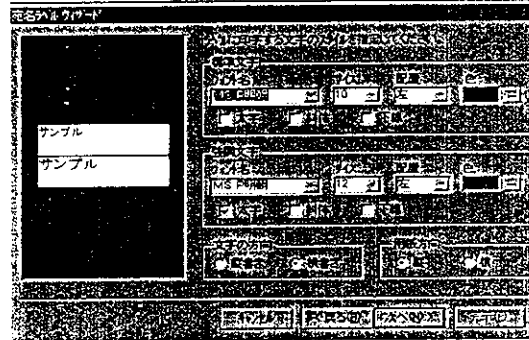
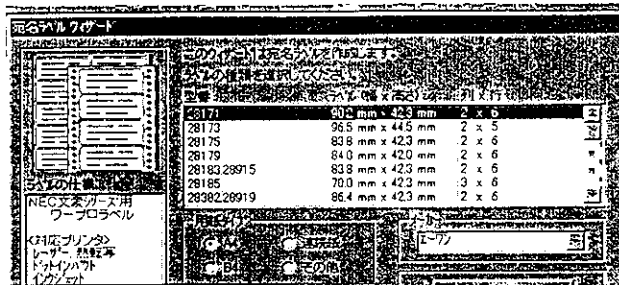
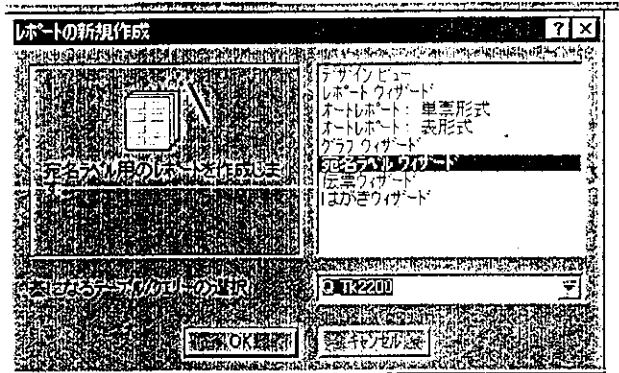
「OK」



「宛名ラベルウザード」が現れ、いろいろな設定を聞いてきます。

ここでは 知恵もありませんので、そのまま「次へ」を押します。

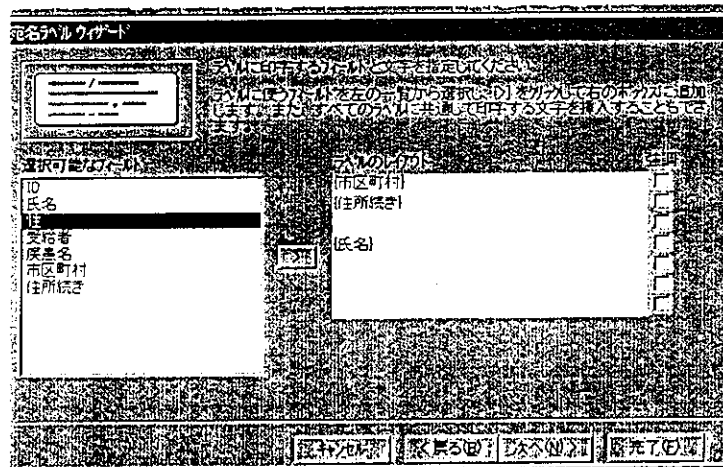
もし皆さんが特定のラベル紙をご使用ならそのように設定してください。



ラベルのレイアウトを作成します。とりあえず図のように「>」を使いながら作成してみてください。

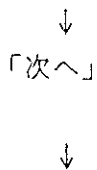


「次へ」



並べ替えを行うフィールドを要求してきます。これはプリントするときの順序を指定するものです。

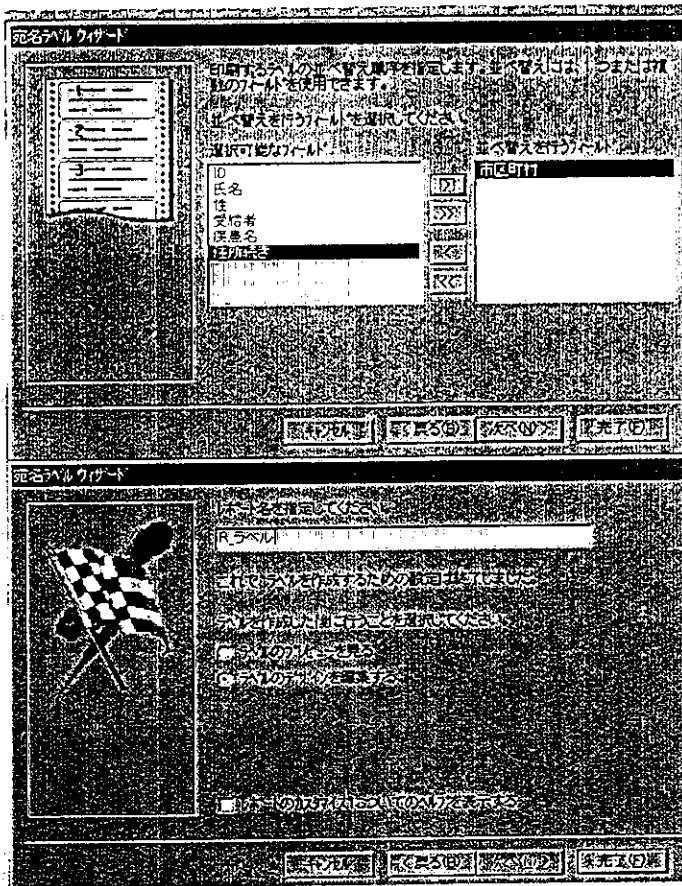
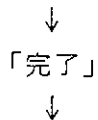
ここでは、とりあえず市町村を指定しました。



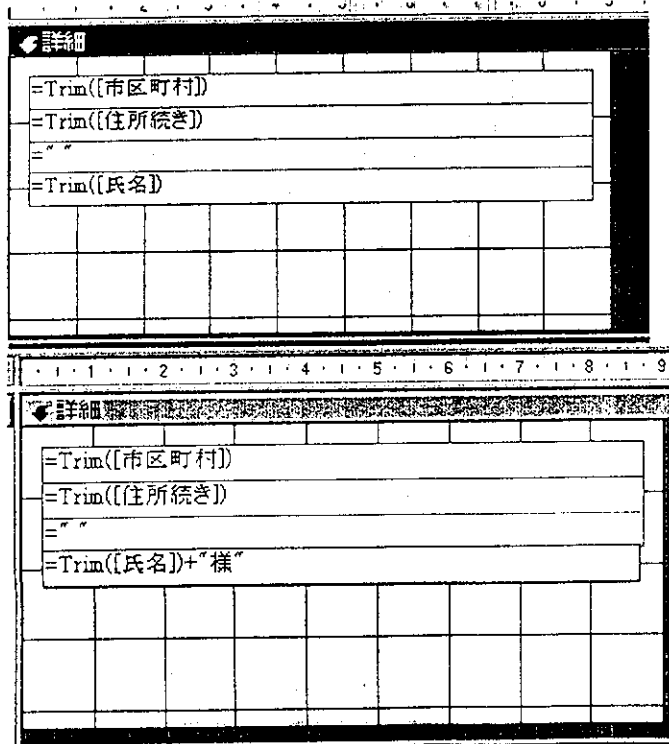
レポート名を指定します。

「R_ラベル」とつけました。

すぐにデザインを編集したいと思うので、「デザインを編集する」をチェックします。



ここで、ラベルのデザイン画面が現れます。



氏名の後に「様」を付けたいので左図のように書き換えます。

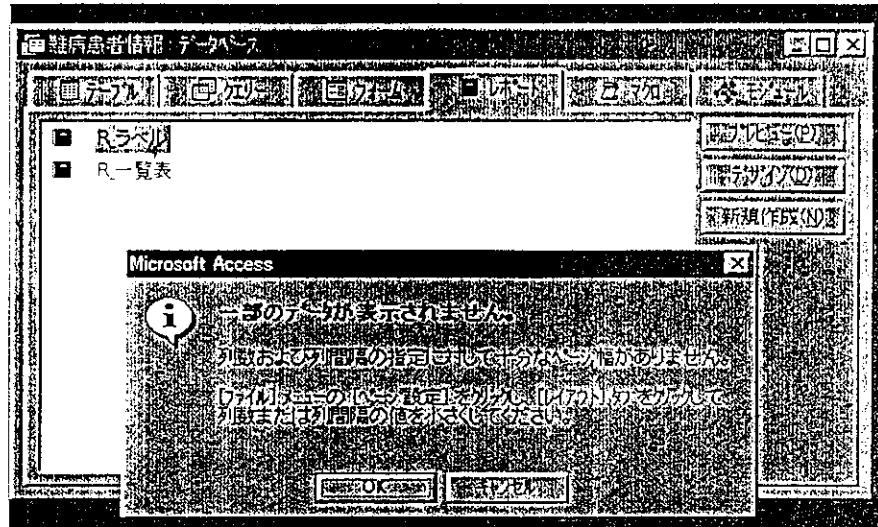
+, "" は半角文字ですので注意してください。

「ファル」上書き保存で保存した後、ラベル画面の右上[X]で閉じてください。

今作成した「R_ラベル」の「プレビュー」をみてみましょう。

「プレビュー」とは印刷失敗のないように前もって印刷される状況を見るものです。

↓

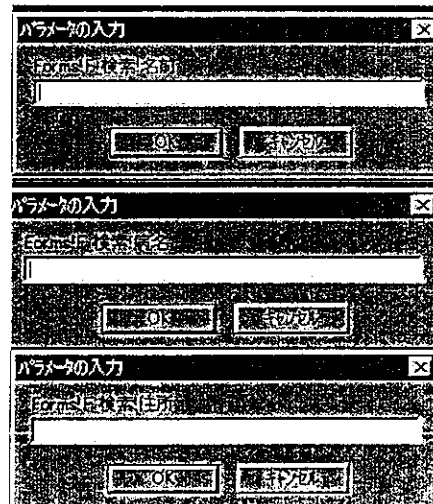


ところが、図のような画面がでてくると思います。

↓

後で修正するとして、とりあえず「OK」を押してください。

パラメータの入力を要求してきます。
すべて「OK」を押してください。



結果として、左図が作成されます。

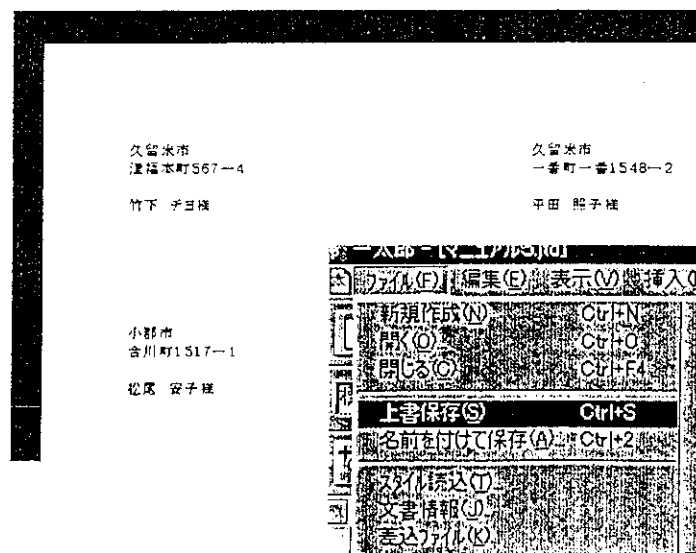
ファイル

↓

「上書保存」

↓

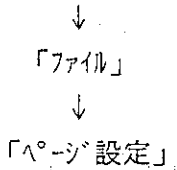
当該レポートの右上[X]で作成完了です。



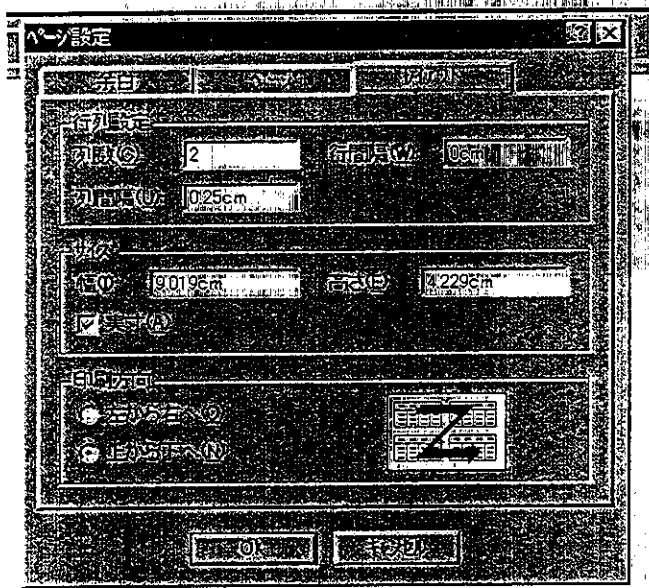
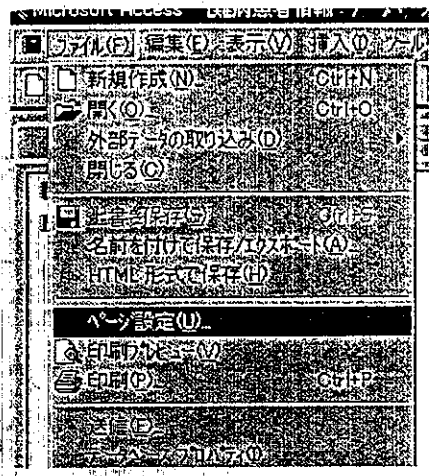
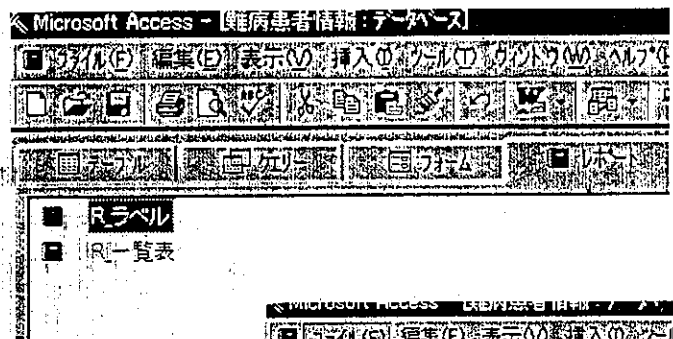
* 「一部のデータが表示されません」の対応を行います。

【方法 A】

レポートで「R_ラベル」を選択します。



「ページ設定」の画面で「レイアウト」を選択。



列間隔 0.25 を 0 にしてみます。

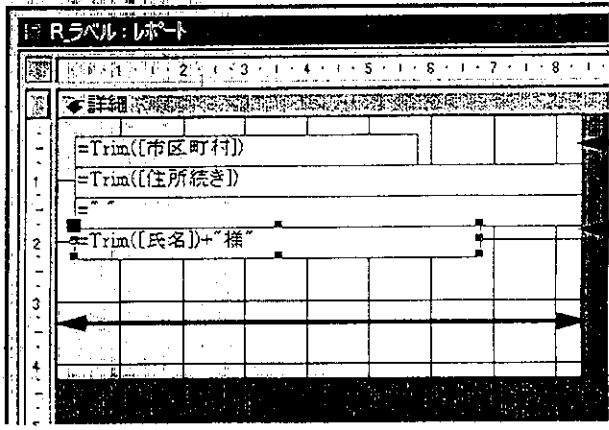
【方法 B】

レポート「R_ラベル」のデザインを変更し幅を狭くします。

これらの操作は、ラベル紙に適合するように行う必要があります。

ラベル紙の種類やプリンターの種類によって多少異なってきます。

状況に応じて使い分けてください。



(12) フォーム「検索結果」の ボタン作成とボタン操作の操作のマクロを設定します。

(12) で作成した一覧表やラベルあるいは個人票を呼び出すためのボタンを「F_検索結果」の中に作成します。

フォームで「F_検索結果」を
選択

↓
「デザイン」

↓
「ツールボックス」で「コ
マンドボタン」を選択
し、作りたいところ
にマウスで作成
します。(これま
までと同様です。)

↓
「コマンドボタンウイザ
ード」が開きます

↓
「キャンセル」し コマンドボタンの「プロパティ」で調整
してみましょう。

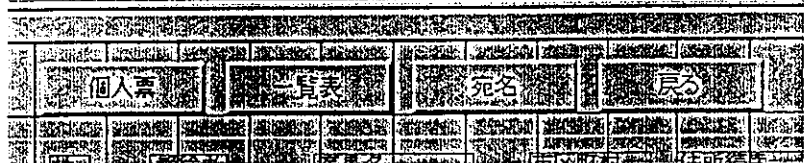
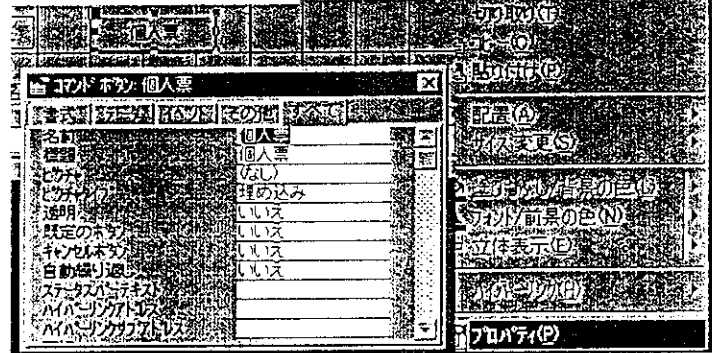
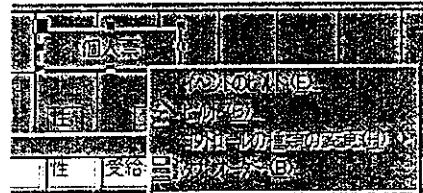
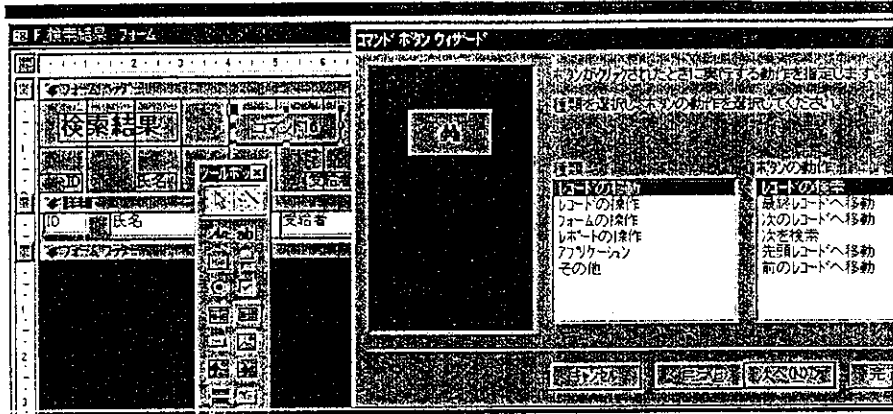
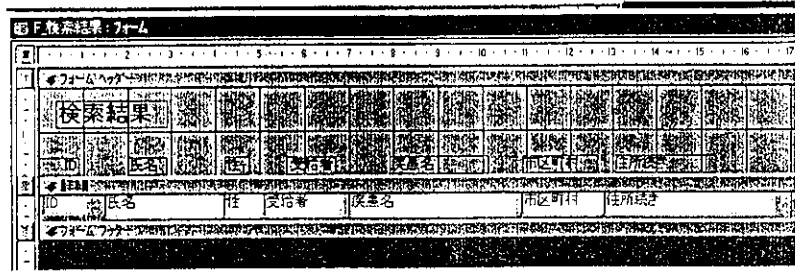
↓
作成したコマンドボタンにカーソルを合わせマウス「右クリック」

↓
「プロパティ」

↓
名前：個人票
標題：個人票

↓
右上[X]

同様に、「一覧表」「宛名」「戻
る」のコマンドボタンを作成し
ます。



続いて、マクロを作成します。
作成の一般的な方法は前記と同様です。

「個人票」、「一覧表」、「ラベル」、「もどる」のマクロを作成します。

これを「M_検索結果」というマクロ（グループ）に保存します。

それぞれのマクロのアクションおよびアクションの引数（下の部分）は下のようになっています。

*** 個人票**

アクション：フォームを開く

アクションの引数：

フォーム名=F_個人票

ビュー=フォームビュー

Where 条件式=

[受給者]=[Forms]![F_検索結果]![受給者]

この Where 条件式は選択する個人票を「F_検索結果」のカーソルの止まっている「受給者」番号にすることを意味します。

アクション：最大化

画面を最大にします。

(このアクションはこれまでのマクロにも有効に使ってください。)

*** 一覧表**

アクション：レポートを開く。

アクションの引数：

レポート=R_一覧表

ビュー=印刷済みビュー

(印刷する前に印刷画面をチェックした方が良いでしょう。また、プリンターが接続されていなくても結果を知ることができます。)

アクション：最大化

画面を最大にします。

マクロ名	アクション
個人票	フォームを開く
一覧表	レポートを開く
ラベル	レポートを開く
もどる	閉じる

マクロ名	アクション
個人票	フォームを開く 最大化
一覧表	レポートを開く
ラベル	レポートを開く
もどる	閉じる

フォーム名	F_個人票
ビュー	フォームビュー
Where 条件式	[受給者]=[Forms]![F_検索結果]![受給者]
印刷済み	任意

マクロ名	アクション
個人票	フォームを開く 最大化
一覧表	レポートを開く 最大化
ラベル	レポートを開く 最大化
もどる	閉じる

レポート名	R_一覧表
ビュー	印刷済みビュー
Where 条件式	

*ラベル

「一覧表」のレポート名が「R_ラベル」
に変わっただけです。

M_検索結果:マカ	
個人票	フォームを開く
	最大化
一覧表	レポートを開く
	最大化
ラベル	レポートを開く
	最大化
もどる	閉じる

レポート名	R_ラベル
印刷シミュレーション	印刷シミュレーション

*もどる

アクション名: 閉じる

アクションの引数:

マクロ外の種類=フォーム

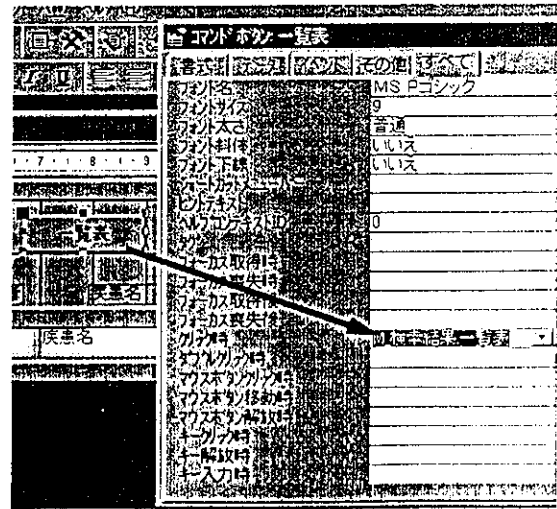
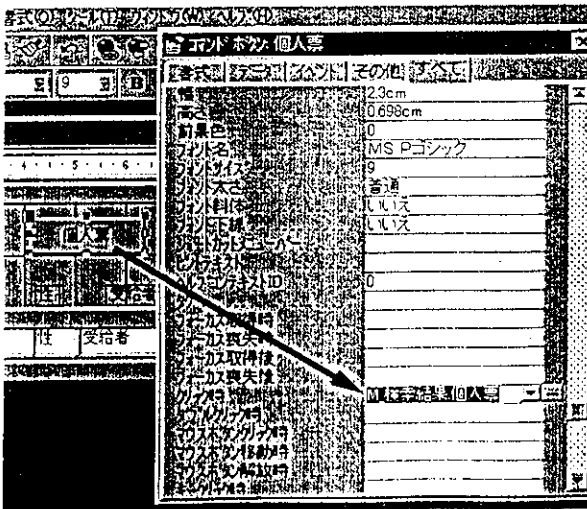
マクロ外名=「F_検索結果」

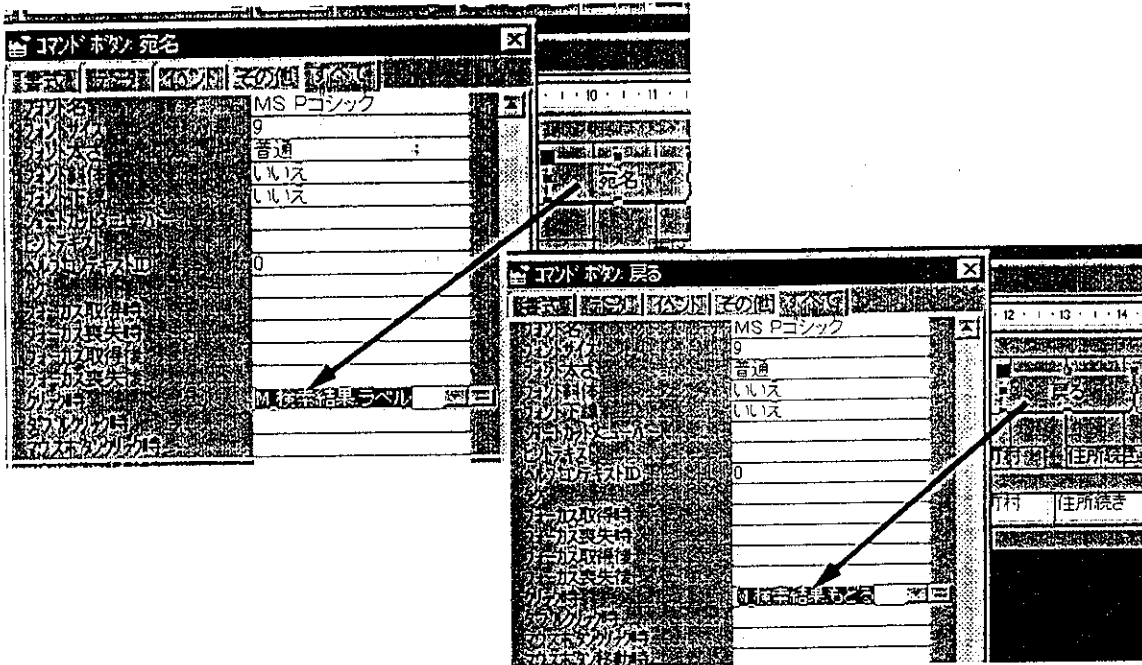
M_検索結果:マカ	
個人票	フォームを開く
	最大化
一覧表	レポートを開く
	最大化
ラベル	レポートを開く
	最大化
もどる	閉じる

マクロ外の種類	フォーム
マクロ外名	F_検索結果
マクロ外の保存	確認

続いて「F_検索結果」にマクロを連結させます。

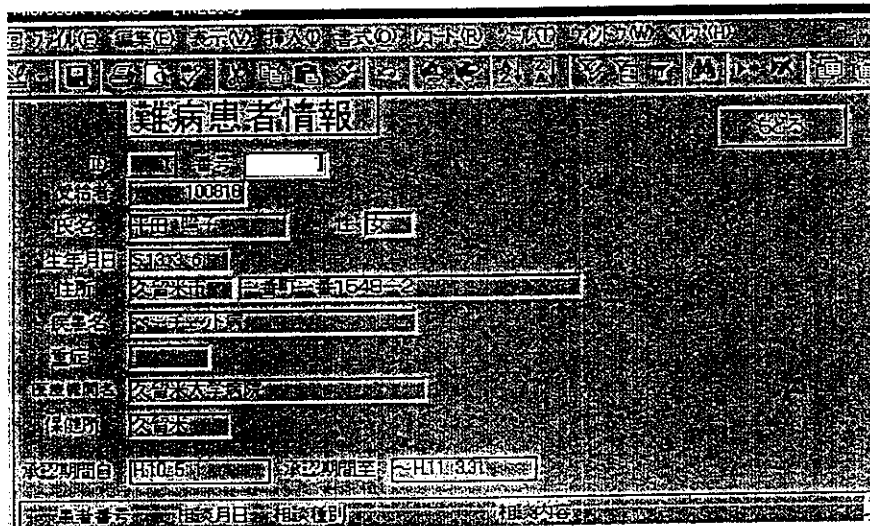
連結のさせ方は、これまでと同様です。





(14) フォーム「個人票」の ボタン操作のマクロを設定します。

とりあえず「もどる」だけ作成してみましょう。



操作はこれまでと同様、フォーム「F_個人票」上に「もどる」のボタンを作成。



マクロ「M_個人票」に「もどる」のマクロを作成。



ボタンのプロティイーで接続します。

さあ、うまく動くでしょうか。

ここでの何の問題もなく動いたら異常です。必ず何らかの問題が発生するはずで
それを1つ、1つ解決することで良いプログラムが完成します。

今回の学習の目的は、自分でプログラムを作成する事もさることながら、他人が作った
プログラムを利用する、応用する、データを活用することを気軽にできるようになるため
です。

付録1 年齢がフォーム上に自動的に表示されるように改良します。

付録2 病名がリストから選び出せるようにします。

現在作成中少々お待ちください。